

海外安全対策情報 平成25年度第1四半期

1. 社会・治安情勢

(1) 5月31日、イシククリ州ジェティ・オグズ地区において、鉱山運営を巡るデモ参加者と警官隊との衝突が発生し、バス1台が放火される等、一部が暴徒化した。治安部隊は、イシククリ州タムガ村からクズルス村までの道路を封鎖し、催涙ガス等を使用してデモ隊の鎮圧に乗り出した結果、多数の逮捕者とともに負傷者も出た。また、キルギス大統領は同日、ジェティ・オグズ地区に対し、6月10日までを期限として、連日21時から翌6時までを外出禁止とする旨の非常事態宣言を発出した。

(2) 5月31日、ジャララバード州においても、上記(1)のデモに便乗した形で一部野党勢力による抗議活動が発生し、数日間に亘り同州政府庁舎を占拠するとともに、ビシュケク・オシュ間の道路を封鎖する事態が発生した。

(3) 6月10日、バトケン州サマルケンデク村のタジキスタンとの国境地帯において、土地不法占拠問題に絡み、キルギス人約2000人とタジク人約500人が対立し、一時周辺道路を封鎖する事態が発生した。

(4) 6月20日、バトケン州カダムジャイ地区のウズベキスタンとの国境地帯において、ウズベキスタン国境警備隊員の発砲により、キルギス人の住民1名が死亡した。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

殺人、強盗等の凶悪事件が散見される他、空き巣、公共交通機関やバザールでのスリ、置き引き等の窃盗事件が日常的に発生している。日本人は、路上強盗、窃盗、また官憲による賄賂の要求等に特に注意を要する。

(1) 殺人・強盗等、凶悪犯罪の一例

ア 6月3日午後3時ころ、ビシュケク市内北西部において、48歳の男が飲酒していたところ、同所に居合わせた30歳の男と口論となり、所持していたナイフで刺殺した。なお、男は逮捕されている。

イ 6月5日、南部オシュ州ノーカット地区において、32歳の男が同級生であった友人と飲酒中にトラブルとなり、素手で撲殺した後、遺体を車で何れかに遺棄した。なお、男は逮捕されている。

ウ 6月21日ころ、首都ビシュケク市南部の第5団地において、同所に居住するグルジア人1名が帰宅し、自宅に入ろうとしたところを何者かに銃殺された。なお、犯人は未だ捕まっていない。

(2) 邦人被害

認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

(1) テロ事件

認知していない。

(2) 爆弾事件

4月9日夕刻、ビシュケク市西部の民家において爆弾が爆発し、男性2名が死亡する事故が発生した。なお、本件は爆弾等を使用した作品を手掛けていた芸術家が、軍の使用済みと思われた爆弾を切断したところ爆発したもので、テロ事件等との関連は認められない。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

認知していない。

5. 日本企業の安全に関する諸問題

キルギスでは、1999年8月に南部バトケン州において、邦人4名が過激派武装勢力により誘拐されており、注意を要する。